

大野 僚 著

## 『上田薫の人間形成論』

新しい教育言説の誕生』

的場 正美 (名古屋大学)

### 1. 本書の教育学にとっての特徴

本研究書は、2008年3月、大谷大学大学院文学研究科に提出された学位請求論文『戦後初期教育思想としての「経験」——人間形成論としての上田薫の社会科教育』に加筆修正されたものである。文章は、繰り返しや冗長な説明がなく、無駄を削いであるので、一語一句の背景と込められた意味を咀嚼しながら読み進める必要があった。評者にとって、本書を読み進めることは、単に著者の展開する論理の概念の理解やその枠組みを理解することではなく、評者のこれまでの実体験と経験を通じた自分の論理を問う作業でもあった。評者個人の内部に形成されてきた教育理論に関する知識が本書の論理を理解するのをさまたげないように、注意深く、自分の態度を開いて読み進める必要があった。自分の論理を問うという経験をともなう書に出会うことは少ない。この書はそのような性格を持つ稀な書である。これは評者の内面に起

こったことであるが、本書は教育学においては、人間形成の論理を再び明らかにした書としての特徴を有している。上田薫が常に機会あるごとに繰り返して説いてきた人間形成の論理を、本書のタイトルともなっている新しい言説として、深く掘り下げて、再度、教育実践を理解する教育者と研究者に提示している。人間を理解する新しい論理の可能性を明らかにしたところに、この研究書の意義がある。

方法論としては、解釈学の方法論であるテキスト解釈の方法を用いている。それ故に、上田薫や他の研究者の文章の解釈される箇所が読み手も解釈できるように省かれずに引用され、その箇所が解釈され、戦後教育の経験主義教育における上田薫の人間観と教育の論理の再解釈が試みられている。

## 2. 本研究書の構成と各章の概要

本研究書は、これまで各紀要に収録された論文を体系的に整理した博士論文が基礎になっているが、例えば、博士論文の一部、第2章は再度紀要において整理され、それが本研究書においてさらに一部修正がなされている。それ故に、5章からなる各章は1つのまとまりをもちつつ、全体が統一的に論述されている。

「はじめに」において、本書の目的と各章の目的が簡潔に示してある。本書のねらいとして「従前の上田教育論研究を踏まえながら、単なる上田讃歌を唱えるのではなくて、その研究手法を批判的に乗り越え、より学問的なレベルでの新解釈の道を探ることである」（本書、12頁）と目的が設定されている。第1章『「戦後」経験主義教育論争』は、戦後の経験主義の立場に立った梅根悟、広岡亮蔵、森昭の3人の研究者を取り上げ、上田薫との違いをその比較において明らかにし、「上田の『動的相対主義』を基調とする教育論の位置づけを試み」（同、17頁）することを目的としている。第2章「上田教育論研究の課題」は、上田薫の思想に関する代表的な先行研究である小川正の研究論文『教育新生への視座』の批判的検討である。ここでは、上田薫の思想が認識論から存在論へ変化していると捉え、存在論的文脈から捉えようとする小川の解釈に疑問が呈されている。そして、上田にとっては、「『存在』よりは行為的実践的な動的場面を説明する形成の『論理』こそが重要であった」

（同、64頁）と結論づけている。第3章「上田薫の教育思想解釈」は、上田の社会科教育と道徳教育に対する言説分析である。ここでは、「解決の未決定性」「数個の論理」など特徴的な概念や用語によって構築された上田の教育言説が「いかに通念的な教育（学）に差異を仕掛ける言説として機能しているかを考察することによって、上田の教育思想解釈の新しい地平を切り開」（同、66頁）くことを目的としている。第4章「人間形成の論理」は、上田教育論の中核である「動的相対主義」を『『動的相対主義の論理』と『数個の論理』という二つの『論理』を考察』（同、101頁）し、「認識や存在を中止に据えた人間学的構想によって彼（上田：引用者）の教育思想がうみだされていることを解明」（同、15頁）しようとしている。第5章「認識の変容に対する言語的戦略」は、上田の教育思想と言説のスタイルに着目し、「上田の教育言説に見られる概念や用語が、文体論としてどのように機能しているかを明らかに」（同、138頁）している。ここでは、ケネス・バーク（K. Burke）の「意味論的思想」と「詩的思想」という文体論の観点から上田の教育言説の特徴が捉えられている。

## 3. 上田教育論の何が解明されたか

第1は、上田の教育思想に関する先行研究の意義と可能性と限界が示されていることである。上田薫と論争相手である梅根悟、広岡亮蔵、森昭、池田久美子の研究、上田教育論の構造を解明しようとした小川正、川合春路、藤井千春の研究、授業研究と上田教育思想の関連を指摘した柴田好章の研究、上田教育論の実践家である水戸貴志代の研究、そして上田教育論の具体化であるカルテの思想を取り上げた伊藤実歩子の研究など多くの先行研究が本研究書では取り上げられ、本研究書の研究目的に照らして、それらの研究の意義と限界が示されている。例えば、小川正の上田研究については、次の4点、1）上田教育論の中核を動的相対主義として位置づけ、その特徴を明らかにしている点、2）その立場から教師論や学力論が考察されている点、3）上田の教育論を知識論として解釈している点、4）上田の表現形式に着目している点、から小川の研究の意義が明らかにされている。そして、本研究書の著者は、「『数個の論理』を創出する以前は、上田が『動的調和』を認識論的に位置づけているのに対して、創出後は存

在論的規定に力点をおいている」(同、58-59頁)という小川の解釈に対して、「上田の教育論を哲学的な文脈により強く位置づけることに」あり、「実践的で行為的な側面を捉えきれなくなってしまう」(同、60頁)と批判している。本研究書の著者は、上田の人間の論理ないし事実の論理を、小川の解釈するように認識論と存在論に区分して捉えるよりは、「『人間』と『事実』がもつ『可能性の世界』が探求の主題であって、それゆえ『存在』よりは行為的実践的な動的場面を説明する形成の『論理』こそが重要であった」(同、64頁)と、締めくくっている。この指摘は、今後の上田教育論の研究と教育学における理論の新しい可能性を追求する土台となる点で、教育研究上の功績が大きい。

第2は、経験主義教育における問題解決に関する上田教育論の意味が位置づけられたことである。特に、デューイの経験について、「人間の内面において知覚や記憶の作用が、必ずしも行動と関連せず独立して発展する」と捉える森昭の見解に対して、上田薫にとっては、経験する個のもつ体制が動的発展するためには、すなわち「内面の発達には『具体的な経験』という媒介が必要であって、それによって『仮構の一』への否定が新たな『仮構の一』を生むという問題解決の意味する生産性がうみだされる」(同、35頁)と特徴づける。

第3は、上田教育論は認識論か存在論かという論議に対して、一定の見解を示したことである。上田の動的相対主義の論理法則として位置づけられる「AハAナラザラントスルユエニAナリ」の解釈をめぐる論争と主張を通して、次の点を明らかにしている。1つには、この表現は、「『動的連続』を根拠にして、区別が断片化されることを避け、『決断』が関係において非連続でありながら連続面をもつ」(同、103頁)こと、形式論理とは異なる実践を優位におくという相対主義の立場から(同、104頁)論理が考えられていることである。2つには「仮構の一への志向」に「自己変革の過程を認識の仕組みとして」(同、105頁)位置づけていることである。3つには、「存在論はむしろ実

践を弱める」「存在を対象として安定させることは、いかにしても連続を静的なものに」(同、110頁)してしまうという上田の論を根拠に、認識論を中核にして上田教育論が展開されているという仮説を提示していることである。

第4は、上田教育論を解釈する方法論を示していることである。1つには研究方法としてはテキスト解釈の方法論が採用されている。2つには、本研究書が意識しているように「教育学的文脈が機能している個別的具体的現象」(同、12頁)として上田の社会科教育論と道徳教育論を取り上げ、上田の教育論の特徴を描くという方法論をとることによって「系統的な知識の習得や形式的に固定した指導案を自明の前提とした従来の教育に対して、差異を仕掛ける仕組み」(同、87頁)を明らかにしている。最も興味深い方法論は、エッセイやアフォーリズムなどの表現様式と「数個の論理」の関係を明らかにしようとしているところにある。

#### 4. 教育学研究にとっての本研究書の可能性

本研究書は、教育学研究にどのような新しい地平を切開く可能性を有するのだろうか。

そのひとつは、教育理論の合理性の再検討と教師教育学の可能性である。評者は、論理を事象や出来事の諸関係を変化しつつある主体が捉えるところに成立すると理解してきた。そのように仮定するならば、論理はそれぞれの教師や子どもや周りの人々に固有に成立している。しかも、それらの諸関係を把握し、表現する言葉はその人の生活や文化と深く結びついている。形式論理ではなく、生活経験に結びつきうる新たな普遍性が成立する生きた論理を解明し、形成していくことの可能性を追求することは、教師の教育活動を客観的な研究対象とし、社会言語学、活動理論、認知科学、批判理論、実証科学を枠組みとして研究してきたえられていた研究を、教師自身が自分と子どもや教材との関わりを捉え、自己変革を伴う論理を手に行う可能性を有している。

(学術出版会刊 2010年5月発行 四六判 196頁 本体価格2,800円)